

大村市について

人 口 97,704 人（世帯数：44, 872 世帯）（令和 4 年 3 月 31 日現在）
面 積 126. 73 km²
概 要

長崎県の県央に位置し、東に多良山系の山々、西に波静かな大村湾に囲まれた自然豊かな環境でありながら、空港、高速道路 IC、新幹線新駅が 5km 圏内に揃うという便利な都市機能を有するというバランスの良さを生かし、長崎県内で唯一人口増加を続けている街です。

大村市子ども未来館「おむらんど」について

1, 施設の目的

- ① 未来館の主人公は親子
- ② 子どもにとって遊ぶことは育つこと
- ③ 子どもはみんなの宝 をコンセプトに単なる「遊び場」を提供するだけでなく、子育てに奮闘しているお父さん、お母さんの思いを受け止め、一緒に子どもの育ちを応援している。地域子育て支援センター子ども未来館「おむらんど」では、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談受付、子育て関連情報の提供、子育て支援に関する講習等を実施している。現在、新型コロナウイルス感染症対策として予約制としている。

2, 施設の運営について

① 整備について

平成 26 年 11 月 8 日開館

建物は既存施設であるため、整備については内装の変更や遊具設置等を業務委託した。(約 3,600 万円)

② 運営について

大村市の直営方式 事業費 19,463,449 円 (R3 年度)

正規職員 1 名、会計年度任用職員他 9 名 計 10 名の交代制内、6 名が保育士

③ 対象・開館時間等

対象 小学生までの子どもとその保護者（原則保護者同伴）

開館時間 月曜～金曜 10 時～17 時

土・日曜、夏休み等 10 時～18 時

利用料 未就学児及び保護者 無料

小学生 有料

利用者数 平成 30 年度 63,060 人（市内 52%、市外 48%）

令和 3 年度 11,703 人（市内 68%、市外 31%）

※新型コロナウイルスの影響により人数制限のため

3, 事業内容について

① 遊びの提供

0歳から小学生までの子どもが、安全かつ自由に伸び伸びと遊ぶことが出来る空間を提供する。スタッフは親子で一緒に楽しむ遊びの提案などを行う。

② 子育て等に関する相談対応

こどもの発達、離乳食、関わり方など各種相談に応じる。必要に応じ家庭や保育園等に出向いての訪問相談なども行っている。

③ 交流の促進

保護者同士や地域との交流の促進を図るため、交流イベントやテーマごとの座談会などを企画・開催する。

④ 子育て支援サービスのコーディネート

子育て世帯が適切なサービスを受けることが出来るような支援を行う。また、コーディネーター機能を充実させるためのケース会議やスタッフ研修などを実施する。

⑤ ボランティアの養成・活用

絵本読み聞かせや伝統遊びの指導などに多くのボランティアを活用。また、母親を子育てサポーターとして養成し、子育て支援を受ける側から提供する側へと循環させる取組を行う。

4, 子育て支援の充実による変化について

① 新型コロナウイルス感染症流行前は、利用者の約半数が市外の方で、子育て世帯が大村市に来る機会になっている。また、子育て世帯の移住相談者が「おむらんど」の見学に来ることがあり、大村市転入の一要因となっている。

② 利用者増に向けて各種媒体により継続的に事業の周知を行っている。
(市広報誌、市HP、こども未来部公式フェイスブック及びインスタグラム、おむらんどだより等)

5, 委員会の意見

今回、視察した大村市は、交通の利便性、地理的優位性から人口が増えており、嬉野市の約4倍の人口規模である。行政規模の差も感じるが、福祉保健部からこども未来部として独立している。0歳から18歳未満のすべての子どもに関する支援、出会いから妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援を総合的に行っている。本市においても子育て支援施策が重要課題として取り組まれているが、施設の手狭さや子育て世代が少ないなどの要因により十分な利用があっているのか疑問である。今後、子育て支援の充実が若者世代の定着や移住のきっかけとなるならば、他の市町の先進的な取組を参考にして、子育て世代の意見等も聞きながら子育て支援の更なる充実を期待する。